

心はいつも
旅する
加藤 九祚

ユーラシアンホットライン

1999.7.5
VOL-16

ユーラシア・コミュニケーション・フェス参加者募集

中央アジア、ウイグル、モンゴル留学生（36人がホームステイ）と話そう

「日本列島を覆うユーラシアの風を感じよう」と31日から8月1日の2日間にかけて、首都圏に暮らす留学生とユーラシアの芸能を介した交流イベント「ユーラシアコミュニケーションフェス99」が新潟県・小出郷文化会館で開催される。主催は、地元の住民や青年会議所、ロータリークラブらで構成するフェス実行委員会と同文化会館。

ユーラシア大陸を吹く偏西風。日本海で大量の水分を含み、お酒で有名な八海山などの新潟の山々にあってもたらされたのが4メートルにも達する雪。これがおいしい魚沼産コシヒカリを育んだ。「日本列島に吹き寄せたのは風だけではない。人も文化も」と開催されることになったのが同フェスティバル。ユーラシア大陸から来日学んでいる中央アジア、ウイグル、モンゴル、シベリア等の留学生が36人参加、モンゴルやウイグルのコンサートを楽しむだけでなく、参加者とフリートーク。今回は特に、正倉院の古楽器や古代ユーラシアの復元楽器を演奏、馬頭琴やウイグルのドタール、日本の三味線などが同じユーラシアの伝統芸能の一員であることを確認する特別プログラムも用意されています。

留学生20人を地元実行委員会の地域住民がホームステイで受け入れ、文化や暮らしをお互いに理解する計画や野外バーベキュー、温泉巡り、地元酒造会社の見学などのプログラムも含まれている。

開催時間は、31日午後2時から5時半まで。夕方は、温泉やバーベキューなどの予定も。

参加希望者は、ユーラシアンクラブまでファックス（044-965-2537）かメール（PAF02266@nifty.ne.jp）で申し込み。

料金は食事付きコンサートが2千円。ロジック宿泊が1泊朝食付き5千円。往復バス代金1万円など。

<参考>アート・温泉・コシヒカリ<ユーラシア・コミュニケーション・フェス in 小出

— ユーラシアの人と歌 楽器 踊り

・期 日：7月31日（土）

午後2時から5時半頃

・会 場：小出郷文化会館

（新潟県北魚沼郡）

上越新幹線浦佐駅又は関越道小出I.C

芸能の接点を比較体験！

コンサートを通じた親睦と交流

中央アジア、モンゴル等の留学生参加

プログラム

オルティンドーと追分

モンゴルの伝統歌謡と追分

馬頭琴とモンゴル舞踊

ウイグルの楽器と舞踊

留学生と語ろう

出演者も交えたフリートーク

古楽器の調べ

国際交流基金より復元古楽器借用

内モンゴルの琵琶、琴演奏

地元の太鼓、津軽三味線、他

<ご参加費>

・コンサート入場料：2千円

・東京から往復バス代：1万円

池袋—小出往復バス最少運行人員30名

・31日夕食代：1千円（野外料理）

・宿泊費：下記よりオプション

<宿泊と朝食>

(1)小出スキーロッジ：朝食付5千円

(2)旅館：朝食付約6～7千円

会場から車で数分の旅館を手配

(3)小出公園でテント泊：朝食代1千円
テントは各自持参、火気厳禁、雨天
の場合も変更不可

<スケジュール>

・31日(土)

8時半：池袋・東京芸術劇場前に集合、
8:45 出発
お昼頃小出着、昼食後、小出物産館等
1時半：小出郷文化会館着（開演2時）
5時半頃：フェス終了
夕食（野外料理）後解散

・1日(日)

温泉(広神村)または玉川酒造見学(守門
村) (未定)
お昼頃、バスで東京へ

●お問合せ・お申込は…

ユーラシアンクラブ

215-0013

川崎市麻生区王禅寺 2485-2-204

TEL : 044(965)2536, FAX : 044(965)2537

e-mail : PAF02266@nifty.ne.jp

モンゴルの音楽について

モンゴルラーメン店長 福島 達磨

モンゴルでは、元王朝時代を頂点とする歴史的な音楽をはじめ、ラマ教の儀礼音楽・中央アジアなど西域地方や漢文化の影響を受けた音楽等、数々の豊富な音楽が伝承されています。しかし一般の牧民に関する限り、それは遊牧生活の中から生まれ発展してきました。

彼らは、五畜（牛・馬・ラクダ・山羊・羊）との永年の生活の中で自然と調和し、家畜をなだめ励まします。

例えば、馬を除く四畜は、自分の産んだ子を嫌うことがあります。或いは、母畜に死なれた子が出る場合があります。その時、牧民は授乳を行わせるために、種々の方策を講じますが、その一つが音楽です。牧民は子を母畜に近づけながらオルティンドーのメロディを鼻歌のように謳います。すると子を蹴ったり、小突いたりしていた母畜が授乳するようになるのです。

このようにモンゴルの音楽は単に演奏をして楽しみ、聞いて楽しむだけでなく、牧民の大切な財産である家畜を一頭でも減らすまいとする必死の働きかけでもあります。

日本から地理的にも離れ、文化も異なるモンゴルですが、歌い方や音階など類似する音楽的要素も多く、特にオルティンドーは日本の追分に大変似ています。

今年のユーラシア・コミュニケーション・フェス in 小出郷は、「ユーラシアの人と歌・楽器・踊り」と題して芸能の接点も比較体験してもらい相互交流を目指している聞いています。中でもオルティンドーと追分の聞き比べは、日本文化の源流がユーラシアにあることを体感していただけることでしょう。

以上簡単にモンゴルの音楽についてご紹介しました。皆様のコンサートを楽しみ、理解する一助となればこの上ない喜びです。モンゴルの味も試したい方はラーメン専門店「チンギスハン」へどうぞ（JR大塚駅南口徒歩2分／電話03-3981-4505）

留学生会議設置検討懇談会を伊豆で開催

国家、民族、宗教を超えて理解、親睦、協力を促進するために、中央アジアやモンゴルの留学生が協力して活動しようと7月3日、4日、伊豆にある会員関係者所有の海岸別荘で懇談合宿を実施しました。秋に向けて「ユーラシア留学生会議」を設置、活動を提案、ユーラシアンクラブが支援する活動の方向について話し合いました。

参加者は、モンゴル3人、内モンゴル人、ウイグ3人、カザフ1人、ウズベク2人、サハ、カルムイク各1人ら留学生のほか、事務局運営委員を中心に日本人11人。

羊の肉のバーベキューや饅頭、さまざまな飲み物で親睦を深めました。話し合いでは、それぞれ

の民族、国家の留学生動向を説明、私費留学生の苦しさ生きがい、対策、民族を超えて留学生が交流することの重要性などについて話し合い。内モンゴルのソヤラさんの琵琶演奏、カルムイックの留学生バドマさんも弦楽器演奏を披露、喝采を浴びました。深夜に及び議論し、花火を楽しむユーラシアの夕べでした。

翌朝は、羊のスープに素麺、ご飯という取り合わせ。海岸を散歩した後、新潟・小出郷文化会館で開催されるユーラシア・コミュニケーション・フェスについて話し合い。フェスの目的や意義、地元住民が留学生を20人ほど受け入れる方向で実行委員会の話し合いをしていることなどを説明、積極的に参加し、交流を促進することを話し合いました。

「皆さん。協力してクラブの雑誌を作しましょう」

ムタリフ アプリミト (東京電機大学留学生/ウイグル)

大陸の遠くの遠くで生まれ育てられた私にとって、あんな綺麗な海を見たのは、今回伊豆に行った時が初めてでした。感動して子供みたいに喜びました。長い間、勉強、アルバイトそして生活の中で溜まったストレスが海に立ち向かったその瞬間どこかに飛んで行ったのです。全ての全てをこの心の広い偉大なる海が受け取ってくれたんだと僕は思いました。この2年間の間で、いろんな活動に参加して来たんですが、今回の旅行はまた違った特別な思い出を残してくれました。初めて逢うとは言ながらもお互いにどこかで逢ったような気がする人たち。大きなことは言えないけど、この人たちとなら国家、民族、宗教を超えた人間関係を作るのが夢ではないと思えました。

彼らをもっと知りたい、ユーラシアをもっと知りたい、こんな気持ちでいるのは私だけではないと思います。お互いにもっと知り合って、情報交換しながら異文化を学ぶ、これがグローバル化を目指して前進している現代社会の中で、どんなに意味があるのかは言うまでもない。

自分もわからないうちにちょっと大き目の話をしちゃいましたが、簡単に言えば、一人一人の人間が互いに知り合うために、それがどんどん成長して民間交流に致すために、情報交換が必要だと思います。

この間大野さんからとても良いアイデアを聞きました。皆さん協力してクラブの雑誌を作らないかとのこと。いろんな面でとても意味があるアイデアだと思います。もちろんあらゆる情報が元となる物ですから、情報収集が必要となります。

皆さん一緒に協力してやれば、またこれが新たな楽しみを生んでくれないかと僕は思います。自分は全力で協力してウイグルに関する情報を集めることに尽くして行きたいと思っています。

具体的な話は今度の打合せで飲みながらと言うことで (^_^)/□☆□\(^_^)!

今日はこの辺で終わらせて頂きます。

ウズベキスタンの格技普及で「日本クラッシュ協会」設立

「クラッシュ」はウズベキスタンの伝統的格技。「投げる」という意味があり、14、5世紀に中央アジアを統治したチムールが、戦争の道具、スポーツ、また結婚式や五穀豊穡の慶事の際に行う奉納相撲として奨励されてきた。競技人口はウズベキスタンだけで7万5千人。91年のソ連崩壊を機にオリンピック競技にするためルールを整備。もともと立ち業中心だったが、青や緑の柔道着に赤の帯を締め、畳の上で行う柔道スタイルで、サンボや柔道の世界の選手に呼びかけ、国際試合を行うようになっていく。

1998年9月、第1回クラッシュ・トーナメント大会を22カ国からの参加選手で開催。国際クラッシュ連盟が設立され、今年1月、日本クラッシュ協会を設立(会長・斎藤定雄・日本サンボ連盟副会長)を設立。5月には第1回世界クラッシュ選手権大会が、42カ国136名の選手が開催され、アジアクラッシュ連合も発足。鎌賀秀夫・日本クラッシュ協会常務理事が副会長に選出さ

れている。日本クラッシュ協会が設立された。

朝食会／群馬

「群馬県をユーラシア県に」を合言葉に理解促進活動を行っているユーラシアンクラブ群馬が6月12日、地元の理解者を中心とした朝食会「ユーラシアンフォーラム」を設置し、第1回懇談会を開催しました。第2回は7月17日。前日の夜、クラブ群馬会員の懇談会も開催されました。

第1回懇談会には、県議3人、市議1人、商工会議所、青年会議所、市役所、中央通り商店会役員、国立赤城青年の家関係者らが出席、第2回は初出席の3人も顔を見せ、ユーラシア構想実現のためさまざまな活動を実現するための自由な議論を実施しています。次回は9月18日、夏のウズベキスタンの旅行の報告、国民文化祭への参加の取組、など事務局の活動結果をお互い報告する予定。

モンゴルの格闘家ルハグアスレンさん帰国

クラブの運営委員の加藤 優幸さんの招きで今春来日。合気道、剣道の練習から写真展の開催などクラブの催しにも参加してくれたルハグアさんが帰国しました。日本の武道をモンゴルの子供たちに教えたいという希望を持っての来日でしたが、来日直後に比べると格段に進歩した日本語とともに、日本理解の方も進んだようです。加藤さんに帰国直前のインタビューをしていただきました。

>来日目的は何ですか

日本の武道について勉強するために来日しました。モンゴルでも武道の勉強をすることが出来るが、きちんとした勉強はできないので。

>日本での成果は

私は合気道の3ヶ月間の稽古を通し、日本の武道について理解できたと思っている。また、日本人の生活習慣、日常についても多少理解できたと思っています。しかし、来日前に思い描いていた日本人の日常の中にも武道精神があると思っていたのは、どうやら過去のことだったようです。映画で見たような武道家（侍という意味も含む）の方と接する機会に恵まれず、滞在期間が短いためよくわかりませんが。

>あなたが学んだ武道をどうやってモンゴルの人々に伝えますか

日本からいらっしゃる様々な武道の指導者と一緒に、モンゴルの人々が何かのきっかけに武道を学べば日本の武道精神が伝わると思います。またそれが願いです。

>なぜ、武道の精神が必要だと思いますか

現在、モンゴルという国は世界的に見れば力

の弱い国です。それは現在のモンゴル人の精神の弱さに問題があると考えます。武道を通してモンゴルの人々の精神が強くなれば、それは国も強くなるということです。

>武道とはいつ出会いましたか

私は1986年に柔道を始めました。モンゴルでは、男の子が生まれれば強い力士になって欲しいという考えがどの親にもあります。綿足は強くなりたくて、7年間柔道を勉強しました。しかし残念ながら、日本人の柔道の指導者はいませんでした。

>日本のどこへ行きましたか

東京・埼玉・茨城・福島・群馬へ行きました。福島で生まれて初めて海を見て年配の方の暮らし振りも初めて見て若い世代との差を感じました。（特に食事と年配の方が入れた煎茶の味の違い）

また、ユーラシアンクラブの人々と知り合うことが出来、群馬で開催された写真展は本当に思いで深いものになりました。日本で名刺交換した人の数は100名を越えているでしょう。本当にユーラシアンクラブには感謝しています。ありがとうございました。

ICU (国際キリスト教大学) 学園祭でアジア民俗音楽舞踊コンサート

アジアへの関心が高まってきたことを踏まえ開催することにしたもので、従来ICUが主流にしがちだった「西洋」に「東洋の風」をを吹き込みたいと企画された。朝鮮の民俗舞踊、音楽にインドネシア、中国の音楽に加え、モンゴルの馬頭琴演奏、モンゴルの歌なども紹介されます。日程は10月30-31日。詳細は、ICU祭実行委員会（電話0422-33-3315）